

2015年3月期 第1四半期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

◆国際線について

Q：第1四半期は好調なようですが、第2四半期以降も同様に継続すると考えてよろしいのでしょうか？

A：7月～9月の予約状況は前年に比べ、2～3%プラスで推移しております。

Q：国際線の路線動向について教えていただけますか。

A：クラス別で見るとビジネスクラスの旅客数の伸びが良く、日本発業務需要と海外発が堅調に推移し、イールドも上昇しております。増便路線についてはニューヨークの2便目が好調で、南米への需要が増加しております。2014年度下期よりボストン線、サンフランシスコ線、ホーチミン線のダイヤを変更し、北米=アジア需要の取り込み強化と、北米・アジア各国から日本各都市への接続利便性の更なる向上を図る予定でございます。

Q：SKY SUITEの導入効果は？

A：ビジネスクラスを中心に、L/F、イールドともに前年を上回り、好調に推移しております。また1機あたりの収入は全て改修前を上回っており、増収に貢献しております。

◆国内線について

Q：第2四半期以降も国内線における旅客数および単価の傾向は継続するのでしょうか？

A：ビジネス系運賃のうち「特便21」などの低価格帯が好調であり、また旅客数も増加していることから収入は想定通りの見通しでございます。7月～9月の予約状況は前年に比べ、2～3%プラスで推移しており、他社との競争環境に応じて、柔軟な座席コントロールを実施してまいります。

◆業績について

Q：減益要因について、円安影響以外の要因はあるのでしょうか。

A：営業費用面では、エンジン整備の増加等により、前年対比で16億円増加しております。また為替影響に加え、燃油市況の上昇により、前年対比で燃油費が53億円増加致しました。

◆コスト面について

Q：部門別採算制度がどのくらいコスト削減に寄与したのでしょうか。

A：部門別採算制度は当社を含め、22社に展開済みであり、部門別採算制度や自助努力により、第1四半期において約10億円の共通経費削減効果がありました。